

2018年8月5日(日)朝10:10

主の聖霊降臨節第12 コーポ会等

8月第1総員聖餐共同主日礼拝式説教

日本アライアンス庄原基督教会

説教題：新しいエルサレムの誕生

聖書:ヨハネの黙示録 21章9～14節

＜口語訳＞

新約聖書407頁

ヨハネの黙示録 21章9～14節

＜新共同訳＞

新約聖書478頁

ヨハネの黙示録 21章9～14節

＜新改訳第3版＞

新約聖書500～501頁

ヨハネの黙示録21章9～14節

＜塚本訳＞

新約聖書821～822頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」、神の御子イエス・キリスト様が、長老・使徒ヨハネに啓示の「神の国の奥義」、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代の事。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7教会への手紙、4～5章は、羔羊礼拝、大讚美、6～13章は、聖徒、天使と龍、獣との戦い、14章は、小羊への大讚美、神無視の人々の裁きと信仰者への忍耐、15章は、金の怒りの鉢の神の裁き序曲、16章は、金の鉢の用意命令、獣の座の暗黒の裁き、ハルマゲドンでの龍と獣と主なる神との決戦、バビロン滅亡預言で、17章は、大淫婦と権力者の癒着、仔羊の勝利、18章は、バビロンの滅亡宣言と哀歌、19章は、大群衆讚美・長老らの礼拝、仔羊婚姻への花嫁の招き、神の大宴会、ハルマゲドンでの神の大勝利、20章は、サタンの千年間の幽閉、殉教者らの復活、千年間王座、サタンの滅亡、死と陰府の葬り、21章1～8節は、花嫁と3つの聲の啓示です。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第21章9～14節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録21章9～14節；ヨハネは、新婦を新しいエルサレムとして描くことの啓示を見ました。

◇21:9～27；塚本訳；新しきエルサレム

「9 すると最後の七つの災厄が盛られた七つの鉢を持つ七人の天使の一人が来て、私に語って言うた。『さあ(此処に來い。)仔羊の妻たる新婦をお前に示そう。』

10 そして霊にて私を大きな高い山の上に連れて行き、聖なる都エルサレムが神の栄光をもって天から、神(の御許)から降って来るのを私に示した。

11 その光輝は究めて高価な宝石に似て居り、水晶の如く透明な碧玉のようである。

12 (其処には)大きな高い城壁があり、十二の門があつて、門には十二人の天使が居り、イスラエルの子らの十二族の名が書きつけてある。

13 (すなわち)東に三つの門、北に三つの門、南に三つの門、西に三つの門(がある)。

14 また都の城壁には十二の土台石があり、その上に仔羊の十二人の使徒の十二の名が(書いて)ある。」

◇9節; ヨハネは、「最後の七つの災厄が盛られた七つの鉢を持つ七人の天使の一人が来て」、「『さあ(此処に來い。)仔羊の妻たる新婦をお前に示そう。』」と、「語った」のを見、そして聞いたのです。

⇒「最後の七つの災厄が盛られた七つの鉢を持つ七人の天使の一人」と、長い説明つきの天使の紹介があります(11:15等)。

⇒この天使は、今度は災いのためではなく、幸いのために派遣され、ヨハネは非常に印象深かったのでしょうか。

⇒「仔羊の妻たる新婦」も、罪に打ち勝っておられる「御子なる主イエス・キリスト様」の姿をヨハネが思い起こしやすい啓示です。

⇒「仔羊の妻たる新婦とされる教会」は、迫害の最中にあるけれども、勝利の主を迎えられるのです。ヨハネは感動感動です。

◇10～11節;「**聖なる都エルサレム**」を天使が「**霊にて私を大きな高い山の上に連れて行き**」、「**神の栄光をもって天から、神(の御許)から降って来る**」を再現して見せ、「**その光輝は究めて高価な宝石に似て居り、水晶の如く透明な碧玉のようである**」と、着飾った「**聖なる都エルサレム**」を描いて啓示しておられます。

⇒「**聖なる都エルサレム**」は、「**神の栄光**」＝「**究めて高価な宝石、水晶の如く透明な碧玉の光輝**」で、表現されるほどの輝きです。

⇒天上の教会・復活の恵みに与った人々は、神にとって「**高価な宝石**」、「**透明な碧玉**」等で、表現できるほど価値ある存在なのです。

◇12～14節;「**都の城壁の門**」には、「**十二人の天使**」と「**イスラエルの子らの十二族の名が書かれ**」、「**東西南北の都の城壁の各三つの門**」は、「**十二の土台石**」があり、「**使徒の十二の名**」が、刻まれているのです。

⇒「**都の城壁の東西南北の門**」は、常に通行可能(21:25)でしたから、区分のためのものではなく、民族として**神の民**と呼ばれてきた

イスラエルと異邦人の中から選ばれた主の教会がともに存在している「**神の都**」です。

⇒それゆえ、「**都の城壁・石垣**」には、**イスラエルの子らの十二族の名**と**異邦人の代表の使徒の十二の名**が書かれていたのです。

⇒現在、イスラエル国家と異邦人のパレスチナ国家は、ことごとく対立しています。**ヨハネ**の時代も、ローマ帝国によって、イスラエルも、教会も、自由を奪われていました。

⇒ユートピアの**聖なる都エルサレム**としてでなく、**神が都の城壁を構えておられる神の国**として受け止め、**主なる神**を崇め、讚美し、心から礼拝しつづけたいと願います。

⇒人間的なやり方には、限界があります。対立をあおることが多いことです。教会においても同じで、人間的策を巡らせることは、多くの場合、徒労に終わります。

⇒1日の労苦は、1日でよいと、主が仰せの通り、必要な意見は、その必要な時、語ることは、大事ですが、すべきことを果たした後は、全てを主に委ねて主の判断を待つのが最善なのです。通用門は、自由ですから。

結論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」、神の御子イエス・キリスト様が、長老・使徒ヨハネに啓示の「神の国の奥義」、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代の事。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7教会への手紙、4～5章は、羔羊礼拝、大讚美、6～13章は、聖徒、天使と龍、獣との戦い、14章は、小羊への大讚美、神無視の人々の裁きと信仰者への忍耐、15章は、金の怒りの鉢の神の裁き序曲、16章は、金の鉢の用意命令、獣の座の暗黒の裁き、ハルマゲドンでの龍と獣と主なる神との決戦、バビロン滅亡預言で、17章は、大淫婦と権力者の癒着、仔羊の勝利、18章は、バビロンの滅亡宣言と哀歌、19章は、大群衆讚美・長老らの礼拝、仔羊婚姻への花嫁の招き、神の大宴会、ハルマゲドンでの神の大勝利、20章は、サタンの千年間の幽閉、殉教者らの復活、千年間王座、サタンの滅亡、死と陰府の葬り、21章1～8節は、花嫁と3つの聲の啓示です。

◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。

◇ヨハネ黙示録21章9～14節は、「新しいエルサレム」の誕生は、「羔羊の新婦」と紹介されるように、主にとって新鮮な思いを抱く新生のエルサレムでした。「最後の七つの災厄が盛られた七つの鉢を持つ七人の天使」が、「羔羊の新婦・新生エルサレム」を紹介するのも、神の愛のご配慮で、人間の愚かな知恵に決別して、新しい歩みをする時なのです。

⇒「究めて高価な宝石、水晶の如く透明な碧玉の光輝」と、表現される「羔羊の新婦・聖なる都新エルサレム」です。「高価な宝石」、「透明な碧玉」は、神の前での存在価値を言っているのです。

⇒イザヤ書43:4に有名なことばが語られています。「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している」にも、「神の民イスラエル」の「高価で尊い」価値が表現されています。

⇒「新天新地」へのイザヤのメッセージは、「見よ。わたしはエルサレムを創造して喜びとし、その民を喜びとする」(65:18b)です。